

日本メディア学会 2025年秋 シンポジウム

韓国におけるメディア環境の変化と市民の分極化 ～尹前大統領の非常戒厳・罷免と大統領選をめぐって

企画要旨：

韓国では昨年、尹錫悦大統領による突然の非常戒厳に端を発し、憲法裁判所による罷免、大統領選という激動を通じて、メディア環境の変化と、有権者の政治志向の著しい分断が浮かび上がった。保守・進歩という2潮流の対立が激化し、敵視や攻撃というべき状態になっていると伝えられる。

その背景にあるメディア環境は、SNSや動画プラットフォームの浸透が大きく進み、特に政治系ユーチューブが数百に上って注目度を高め、それらは新聞やテレビなどを批判しつつ強い影響力を得つつも、事実とは異なる情報発信も見受けられるという。日本においても昨年から今年にかけ、主要選挙においてSNSと動画が重要な役割を果たし、その中で偽情報・誤情報や誹謗中傷が深刻な問題となっているだけに、韓国の現状は日本より一歩先を行く形で課題を提示しているようにもうかがえる。

もとより、メディア選好と政治志向の分断化は米国において極めて深刻化しているように、広く国際的な課題といえる。時間をかけた対話と討論よりも短尺での糾弾や論破が歓心を得て拡散されるメディア環境にあって、今後のメディアとコミュニケーション、さらにジャーナリズムにどのような役割を想定すべきか、民主主義のより良い機能のため市民として何をすべきかは喫緊の課題であり、奥深い議論を要する。

今回、2000年代以後のネット政治の分析を続け、日本と韓国の双方でメディア研究・教育の実績を持ち、両社会とメディアを比較してきた韓国・東国大学の李洪千氏、日韓の社会、市民、ジャーナリズムの変化の中に自らも身を置きながら取材報道を続けてきた毎日新聞の堀山明子氏をお招きし、ネット・政治・メディア・市民の文脈を掛け合わせた議論を創出することで、より深く広い視座を得るきっかけをつかみたい。

【登壇者】

問題提起者：李洪千（韓国・東国大学）（問題提起者）

問題提起者：堀山明子（毎日新聞）（問題提起者）

討論者：澤康臣（早稲田大学）（討論者）

司会：趙相宇（立命館大学）

【開催形態・時間】 オンラインにて、2025年11月29日（土）15:45～17:45